

「森林再生基金」(FRONT80) 第 4 回助成案件の決定について（お知らせ）

1 概 要

- (1) 当金庫は、国内の荒廃した民有林の再生により、地球温暖化防止などの森林の多面的機能が持続的に発揮されることを目的として、平成 17 年 3 月、創立 80 周年を機に 10 億円規模の「公益信託 農林中金 80 周年森林再生基金」(FRONT80)を設定し、森林の再生と保護（保全）を通じた社会貢献事業の取組みを開始しております。
- (2) 本取組みは、民有林を再生する事業・活動に対し 1 年当たり 1 億円程度の助成を行うもので、信託財産 10 億円を設定し 10 年にわたって実施していきます。
- (3) これまでの 3 か年で 13 事業体に総額 292 百万円の助成を行ってまいりました。
(別紙 1 「FRONT80 の概要」、別紙 2 「スキーム図」をご参照ください。)
- (4) 4 年度目の今回は、森林組合 16 件、生産森林組合 2 件、NPO 法人 3 件の合計 21 件の応募があり、公益性、創造性等の観点から審査の結果、4 事業、合計 5 4 百万円の助成を決定しました。なお、生産森林組合（単独申請）の選定は初めてです。
- (5) 今回は、①従来からの里山林を守り育てるシステムが機能不全になる前に、モデル地区を設定し、活力ある里山広葉樹林の再生、②作業道と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムの確立により未利用材を含めたトータルコストの低減、③急峻な地形において「壊れにくい作業道」を開設し、低コスト団地化を図ることによる持続可能な林業経営、④高性能林業機械の導入により、木材の「定量」、「定品質」、「定価格」供給により林業収入の安定的確保を図り、循環型林業地の形成等に取り組むなど、地域林業のもつ緊急な課題に対応して意欲的に森林・林業再生を目指していることが特徴となっております。

（ご参考）

これまでに、第 1 ～ 3 回の助成事業として 13 件の決定を行いました。当金庫では、「フォローアップ事業」として、助成先の事業実施に際し森林生態学や森林施業等の専門家を派遣し、事業完成に向けたサポートを併せて実施しています。

また、例年、助成先による事業完了発表会を開催していますが、本年も、第 3 回助成先（4 件）による発表会を開催する予定（7 月頃）としております。

2 助成決定案件の概要等

助 成 対 象 先	事 業 の 概 要 と 評 価 の ポ イ ン ト
とやまけんせいぶ 富山県西部森林組合 (富山県) 対象地面積 87 ha	事業名： 未来へつなぐ、里山再生プロジェクト 当地域では、古くから里山の天然広葉樹林を薪炭用材として活用してきたが、戦後の燃料革命により、これらは放置され、樹齢 60 年生にも達し、萌芽能力は低下し、クマザサの繁茂もあり、里山広葉樹林の再生が大きな課題である。 当事業では、富山県森林研究所の協力の下、里山林を守り育てる従来のシステムが機能不全になる前に、伐採木は菌床栽培用オガ粉として活用しつつ、他の模範となる新しい循環システム（20～30 年サイクル）のモデル地区を設定し、活力ある里山広葉樹林の再生を目指す取組みが評価された。
まつさかいいな 松阪飯南森林組合 (三重県) 対象地面積 56 ha	事業名： 林地残材を有価に －低コスト生産システムの構築と分析－ 当地域は、元々林業が盛んな松阪市飯高町の蓮(はちす)ダムの上流域にあるが、奥地で、急傾斜地であることに加え、木材価格の低迷、後継者問題等から間伐等の整備が放棄されている森林が増加している。 当事業では、作業道と高性能林業機械（スイングヤーダ、プロセッサ）の組合せによる低コスト（未利用材を含めたトータルコスト）作業システムの確立、そのコスト分析を行い、これらの成果の管内全体への波及を目指す取組みが評価された。
いぎす 生栖生産森林組合 (兵庫県) 対象地面積 65 ha	事業名： 大橋式作業道による「壊れにくい作業道開設」事業の実践 当組合においては、従来は皆伐・再生林の経営を行っていたが、鹿による植栽木の食害、木材価格の低迷、組合員の高齢化等により、皆伐を回避し、高齢級の大径優良材生産に経営方針を転換しているが、そのためには、長年継続的に使用できる安心、安全の高密度路網の整備が必要である。 当事業では、兵庫県指導林家会とも連携して、半ば見放されていた急峻な地形である当団地において、大橋式の「壊れにくい作業道」を開設し、高密度路網による低コスト団地化を図り、持続可能な林業経営を確立し、地域のモデルとしての普及を目指す取組みが評価された。
にちなんちょう 日南町森林組合 (鳥取県) 対象地面積 267 ha	事業名： 循環型林業地の形成 ～林業収入の安定的確保～ 当町は、戦後、精力的に造林に取り組み、現在では、林齢約 40 年生を中心に、人工林面積は 18,000 ha、年間成長量は 12 万 m³ となり、年間 8 万 m³ の木材（丸太換算）を生産できる資源状況となっているが、実際には、切捨て間伐が 6 割にも及んでいる。 当事業では、高性能林業機械の導入による低コスト林業を確立し、利用間伐率を 60% に引き上げ、「定量」、「定品質」、「定価格」の 3 つの定をテーマに、安定的に木材を生産し、地元で操業を開始した LVL 工場に安定供給することで、森林から安定した収入を得て、その収入により森林整備を行う循環型林業地の形成を目指すためのモデルとする取組みが評価された。

3 今後のスケジュール（予定）

平成 21 年 4 月	第 4 回助成決定案件の事業スタート
平成 21 年 5 月	第 5 回助成案件の募集開始
平成 21 年 7 月	第 5 回助成案件の募集終了
平成 22 年 2 月	第 5 回助成対象先決定
平成 22 年 4 月	第 4 回助成対象先の完了事業の実査
平成 22 年 5 月	第 4 回助成対象先への助成金交付



平成 28 年 5 月	第 10 回助成決定先への助成金交付
-------------	--------------------

4 助成決定案件の内容や次回募集についての問合せ先

全国森林組合連合会 林政・組織部 TEL 03-3294-9717
〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-1-12 コープビル 8F

農中信託銀行(株) 営業第二部 TEL 03-5281-1340
〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-1-12 コープビル 1F

農林中央金庫 農林水産金融部 TEL 03-3243-7223
〒101-8120 東京都千代田区大手町 1-8-3 JAビル 3F

以上

(本件プレスリリースにかかる照会先) 農林中央金庫 広報部(世古, 平井, 湯山) TEL 03-5222-2019
--

農林中金 80 周年森林再生基金(FRONT80)の概要

- 1 名 称 : 公益信託 農林中金 80 周年森林再生基金
- 2 区 分 : 特定公益信託
- 3 委託信託銀行 : 農中信託銀行株式会社
- 4 目 的 : 国内の荒廃した民有林の再生により森林の公益性を発揮させることを目指した活動に対して助成し、もって森林の多面的機能が持続的に発揮されることを目的とする。
- 5 助成対象事業 : 国内の荒廃した民有林の公益性を発揮させることを目的とした活動であって、地域の森林に対する長期ビジョンをもった活動で、かつ費用対効果に十分配慮した創造性が高いと認められる以下の事業。
 - ・ 複数の森林所有者との長期安定的な契約に基づく、ひとまとまりとなった荒廃林の再生活動（長伐期施業・複層林施業、地域林業の特色を生かした施業等の公益的な施業を条件とする。）
 - ・ 上記に附帯する林地境界確定、林地調査、不在村者調査等
 - ・ その他目的を達成するために必要な事業
- 6 助成対象者 : 営利を目的としない法人で、過去の活動歴等からみて本活動を運営するに十分な能力、知見を有する団体(ただし、地方公共団体を除く。)。
- 7 選考方法 : 運営委員会における当基金の趣旨、目的に照らした活動内容・活動効果の大小等についての総合的な審査を経て選定する。
- 8 信託財産等
 - (1) 当初信託財産 : 1,000 百万円
 - (2) 信託財産取崩しにより、年間 100 百万円を目処に助成(単年度助成で一団体あたり上限金額は 30 百万円、複数年助成を希望する場合は毎年度申請し審査を経る。)
 - (3) 予定信託期間は 10 年程度

以上

農林中金 80 周年森林再生基金（FRONT80）のスキーム図

